

第 61 回 企業活性化研究分科会・議事録

＜第六一回 2013 年 9 月 21 日（土）時間：13：30～17：00 於：専修大学（神田校舎）＞

参加者：井端、大野、小林、夏目、浜田、宮川、山本（7 名）

1. テーマ：再生企業の分析－レナウンの場合－

・報告者：夏目拓哉 ・配付資料：7 枚

・報告内容の要旨

本報告は、業績回復を図る株式会社レナウン（以下、同社という。）の分析を行い、再生へ向けての方向性を検討している。

はじめに、同社が行なってきた企業合併、事業売却などの経営再編について分析した。同社は 2004 年に（株）レナウンと（株）ダーバンが経営統合し、持ち株会社として設立した。両社の事業・機能の再編を行ない、製造販売事業の再構築を図った。それによって、生産性及び財務内容の健全性の向上を図ったものであると推察した。

次に収益性分析を行ない、ROA を構成する M と T を検討した。M の値は低いながらもプラスの値で推移し、T の値は、1 以上で推移していた。同社の経営状況は、厳しい状況にあり、収益性が低下傾向にあると考えられる。これは、同社における保有不動産の売却や事業所集約、不採算ブランド売却などの資産売却の縮小を行なったものであると分析した。

最後に、同社におけるターンアラウンド戦略について検討をし、再生の方向性を考察した。同社は 2011 年 2 月期まで資産の縮小戦略を中心に行ない、2012 年 2 月期から復帰戦略の実行へ転換していると考察した。企業の再生について、三つの再生ポイントをあげ、その観点から分析した。その結果、同社は経営統合を行ない、様々なジャンルのブランドを獲得してきた。しかし、収益性と成長性については、2009 年 2 月期まで戦略的に十分に考慮されずにきたと推測した。

同社の課題は、競争優位の確保のために、IT による業務プロセスの効率化、流通網の整備、従前の主力流通業態への規模拡大等である。それらの課題へ取り組み、業績改善へ注力する必要があると考察した。

2. 今後の文献レビューについて

3. 今後の予定について

- ・ 10 月 26 日（土） 分析企業-オリンパス株式会社-
- ・ 11 月日時未定 分析企業-エルピーダメモリ株式会社-
- ・ 12 月日時未定 分析企業-日本電気株式会社-

（文責：浜田勇毅）